

# 津ライスニュース 平成27年産(普通期栽培)

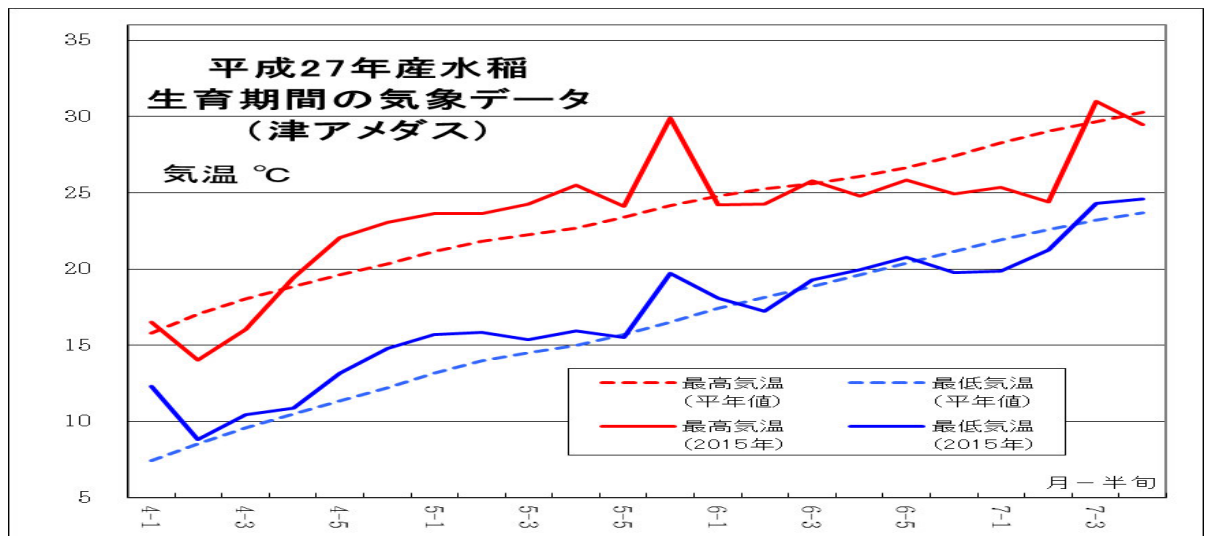
平成27年7月22日

津地域農業改良普及センター 電話:059-223-5121

## 気象経過

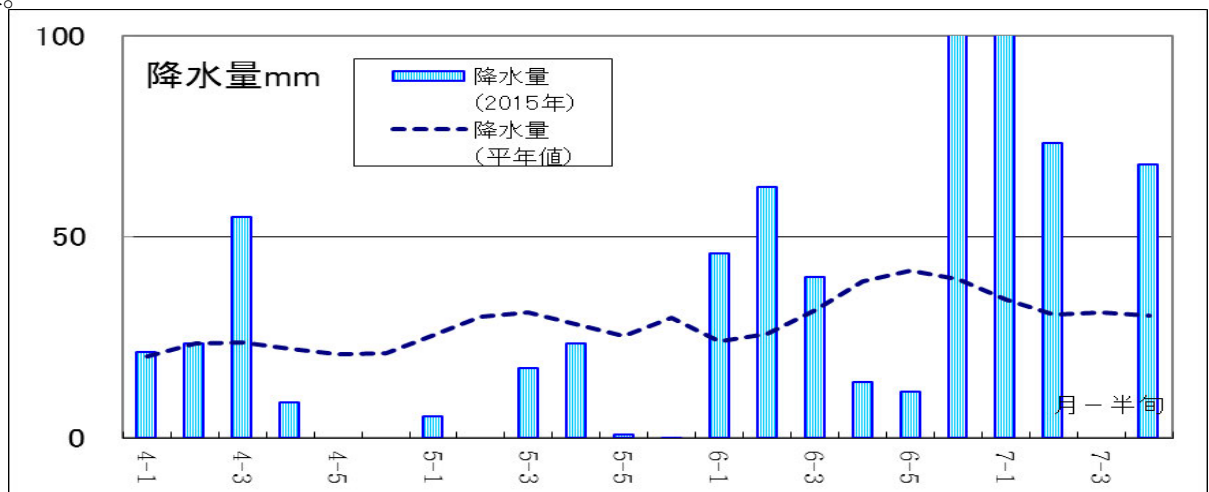
### <気温>

4月中旬以降、気温は高めに経過し、特に5月末頃の気温が高くなりました。  
6月に入り最高気温を中心に低温傾向となり、7月中旬にはやや高温に戻りました



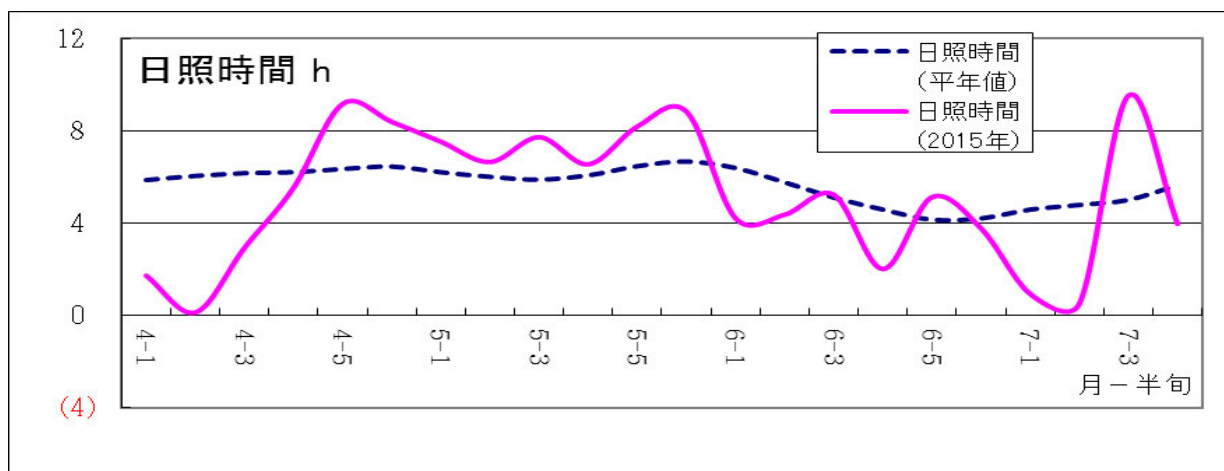
### <降水量>

4月中旬に一時雨が多かったもののその後降水量は少なく、6月に入って雨が降るようになりました。6月末から7月は停滞する前線の影響で降雨量がかなり多くなりました。



## <日照時間>

4月中旬以降、晴れた日が多く、6月入ってからは一転して曇天傾向が続いています。



## 生育の概況

本年は3月以降、雨の日が多かったことから、用水は確保されていて、代かき作業等は順調でした。3月中旬から4月上旬の高温、また、4月上旬の日照不足により、苗丈の長い苗が多く見受けられました。

津管内の田植え作業は、植え始めがやや遅い傾向が見られましたが、概ね4月下旬から5月上旬にかけて、早植え栽培の田植作業が順調に行われました。

本田での生育状況は、例年見られるような低温・強風による植え痛みがほとんど無く、初期生育も概ね順調です。ただし、日照時間が多く雨が少ない天候なので、水の出入りが少ないほ場では藻類がやや多く発生しました。

水不足の影響から、中干し作業に躊躇するようなほ場や地域も見られていましたが、6月8日頃の梅雨入り以降の雨により、中干しも随時開始されています。

津管内の生育基準田でも生育は順調で、前年同時期と比較すると葉齢の進展はやや早く、草丈は長く、茎数もやや多い状況となっています。出穂時期も平年より早い傾向でした。

7月16、17日の台風11号の襲来により、稲葉身の褐変や穂擦れ等が観察されており、収量への影響が懸念されます。

## 今後の栽培管理

### <穂肥>

穂肥施用が早すぎると、下位節間が伸びやすくなるため倒伏を助長します。このため、コシヒカリの1回目の穂肥は出穂15日前頃、2回目の穂肥はその5～10日後に施用します。出穂前日数は葉耳間長(止葉の抽出程度)でも確認できます。

コシヒカリでは、草丈70cm、葉色がSPAD34(葉色板で4.0)を越えた場合には倒伏が懸念されますので、穂肥をやめるか、時期を遅らせて減量して施用します。

コシヒカリ以外の品種では草丈は同じく70cm、葉色はSPAD37(葉色板で4.5)がその判断の目安となります。

出穂間近の穂肥施用は玄米タンパク含量を高め食味を低下させてしまいますので避けてください。

### ○穂肥の時期

	コシヒカリ	コシヒカリ以外の品種
第1回穂肥	出穂18～15日前(幼穂長1.0～1.5cm)	出穂20日前(幼穂長0.3～0.5cm)
第2回穂肥	第1回穂肥の5～10日後	第1回穂肥の5～10日後

### ○穂肥の量

	コシヒカリ	コシヒカリ以外の品種
葉色	3.5～4.0	4.0～4.5
第1回穂肥	チツソ成分 2.0～2.5kg/10a	チツソ成分 2.5～3.0kg/10a
第2回穂肥	チツソ成分 1.5～2.0kg/10a	チツソ成分 1.5～2.0kg/10a

水稻生育予測							H27.7.18 現在
品種	移植期	幼穂形成期の予測日	出穂期の予測日	(平均との差)	成熟期の予測日	(平均との差)	
コシヒカリ	5月15日	7月10日	8月1日	2.4日遅い	9月4日	3.2日遅い	
	5月30日	7月20日	8月12日	3.1日遅い	9月16日	3.5日遅い	
	6月15日	8月3日	8月25日	3.3日遅い	10月3日	4.3日遅い	
みえのゆめ	5月15日	7月10日	8月5日	2.3日遅い	9月10日	2.0日遅い	
	5月30日	7月20日	8月25日	7.7日遅い	9月29日	6.9日遅い	
	6月15日	8月6日	9月21日	5.0日遅い	10月24日	4.3日遅い	

※三重県農業研究所作成の生育予測システムVer.9.2による生育予測です。  
気象庁アメダス津観測地点データ(直近10カ年の平均気温)を使用しています。

## <病害虫対策>

### ○いもち病

6月中旬以降、県内の広い範囲でいもち病の感染好適条件が現れてきています。7月上旬以降も繰り返し感染好適条件が続いてきており、一部の地域では多発生ほ場も見られてきており、引き続き注意が必要な状況です。ほ場を見回って、発生を確認した場合は早急に防除して、いもち病の進展、拡大を防ぎましょう。早期発見、早期防除が肝心です。

### ○斑点米カメムシ類

斑点米の原因となるカメムシ類は、稲が出穂するまでの間はイネ科雑草の汁を吸っています。カメムシ類の居場所となりやすい畦畔雑草は、出穂10日前までに除草しておきましょう。(出穂後の草刈りは、水田へカメムシ類を追い込むことになるため避けましょう)

出穂後にカメムシ類の発生が多い場合には、殺虫剤施用により防除してください。

